



(1) 保存地区の概要

地区名	薩摩川内市入来麓
種別	武家町
面積	約19.2ヘクタール
選定年月日	平成15年12月25日

特徴

薩摩川内市入来麓伝統的建造物群保存地区は、中世山城である清色城跡を背景として、三方を天然の堀に見立てた樋脇川（清色川）に囲まれた平地に展開された武家集落であり、軍防を主とした戦国期の城下形式の代表的な例として考えられています。

当地区は、中世の麓集落を基盤として、江戸時代に整備された地割を良く残し、旧武家屋敷の主屋や街路の両側に連なる玉石垣、生垣や庭園などが周囲の環境と一体となって麓の特色ある歴史的景観を今に伝えています。

(2) 保存地区のあゆみ

平成3年度	・日本ナショナルトラスト社「清色城と入来麓武家屋敷群」の調査を委託 ・麓町づくり懇話会を発足
平成10年度	伝建保存地区の選定及び清色城国史跡指定に関わるプロジェクトチーム結成
平成11年度	鹿児島大学による麓武家屋敷群の特定物件調査
平成13年度	伝建条例の制定、伝建審議会の開催
平成15年度	重要伝統的建造物群保存地区に選定
平成16年度	清色城跡が国史跡に指定
平成22年度	街なみ環境整備事業開始（～令和6年度）
平成25年度	旧増田家住宅の修理・復原工事が完了し、一般公開を開始
平成26年度	旧増田家住宅が重要文化財に指定
令和元年度	日本遺産「薩摩の武士が生きた町」に入来麓が認定
令和5年度	・入来麓交流館開館（上ノ馬場拠点施設） ・旧増田家住宅来訪者10万人達成

(3) 保存地区の保存と整備

① 修理・修景事業(直近10年)

- 平成24年度 修理事業(旧増田家住宅、石垣1件)
防災施設事業(旧増田家住宅)
重要文化財建造物等公開活用事業(旧増田家住宅)
- 平成25年度 修理事業(石垣1件)
- 平成26年度 修理事業(納屋、石垣等2件)
- 平成27年度 修理事業(母屋屋根、石垣等2件)
" (災害復旧・門1件)
- 平成28年度 修理事業(石垣2件)
- 平成29年度 修理事業(石垣2件)
- 平成30年度 修理事業(石垣1件)
- 令和元年度 修理事業(石垣1件)
- 令和2年度 修理事業(石垣3件、茅葺門差し茅修繕)
- 令和3年度 街路灯整備事業(31基)
- 令和4年度 修景事業(石垣1件)
上ノ馬場拠点施設整備事業

○修理・修景事業の例



○災害復旧の例



薩摩川内市入来麓(鹿児島県)

②街なみ環境整備事業

平成22年度から街なみ環境整備事業(国土交通省)を実施しており、これまでに案内板の設置や麓中央広場の駐車場整備、街路灯の設置等を行っています。

令和4年度には観光拠点施設の整備、令和5年度には、外構整備を実施しました。



街なみ環境整備事業による整備箇所



③国指定史跡「清色城跡」

伝建地区に接する国指定史跡「清色城跡」の散策道の整備を年次的に実施しており、伝建地区と一体的な活用を図っています。



国指定史跡「清色城跡」



散策道整備の様子



サムライツーリズムの様子

(4) 保存地区の活用とまちづくり

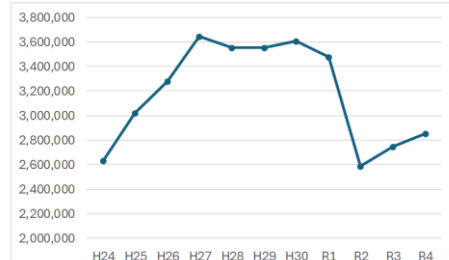
○観光での活用事例

入来麓地区は閑静な住宅街であり、伝建地区選定後も積極的な観光利用は行われていませんでしたが、平成25年に旧増田家住宅を復原修理し一般公開したことを契機として、入来麓の観光資源としての評価が高まり、その活用が期待されるようになりました。

市では、平成28年6月に入来麓観光案内所を開設し、外国人観光客等に甲冑や着物の着付け体験、茶道体験等を提供する「サムライツーリズム」など、観光振興に取り組んでいます。

一方、民間の取り組みとして、平成29年6月から伝建地域内の3飲食店がそれぞれの特徴を活かして新メニュー「せごどんぶい」を考案し、現在は地区外にも波及して本市の新たな名物メニューとなりつつあります。

入来麓地区に興味を持ち訪れてくれる観光客への「おもてなし」についてよりよい方法を考え、実施できるよう取り組んでいます。



(資料:観光物産課)

薩摩川内市 観光客入込数

(5) 住民等の取り組み

- ・保存会や地区コミュニティ協議会、NPO団体が合同で「入来麓伝建地区協議会」を設立し、伝建地区内にある入来郷土館や旧増田家住宅などの指定管理を請け負っています。旧増田家住宅には管理人として地域の住民が常駐し、地元住民ならではの知識や経験を活かした解説を行っています。
- ・伝建地区内にある入来小学校では、ふるさとを愛する、心豊かな児童の育成を目的として、3年生以上の児童全員による「入来小学校ジュニア歴史ガイド」を実施しており、観光客への説明で好評を得ているほか、児童自身の成長にもつながっています。
- ・旧増田家住宅にて、地域の伝統的なひなまつり行事「かえんそや」の実施や郷土芸能の練習・披露等を行うなど、地域の文化の保存、継承も行われています。
- ・令和4年には、入来麓伝建地区協議会と観光案内所等が協力し、旧増田家住宅で「入来麓タイムトラベルLIVE」と題し、薩摩琵琶やバイオリンなど和洋弦楽を利用した演奏会が実施され、好評を博しています。



入来麓タイムトラベルLIVE



ひなまつり行事「かえんそや」

○地元の声

入来麓伝統的建造物群保存地区保存会 会長

当保存会は、平成15年の伝建地区選定と同時に、保存地区内の住民と土地所有者により結成され、現在まで「武家集落の景観の保存」並びに「住み良い魅力的な町づくり」を目指し活動してきました。特に、御仮屋下お堀の清掃作業や重要文化財の旧増田家住宅を中心とした防火訓練なども実施しております。

また、観光客へのガイドや入来小学校児童のジュニア歴史ガイドへの指導なども行っております。

平成25年に旧増田家住宅の保存修理工事が完了し、一般公開されたことで観光の核となりました。また、入来麓伝建地区協議会や地域おこし協力隊の活動により時季を得たイベントの開催、埋もれていた伝統行事の復活などを行い、メディアにも取り上げられ県内外から多くの観光客が訪れるようになりました。

私ども保存会もこれらのイベントに積極的に参加しておりますが、地区内住民の高齢化や減少により厳しい状況にあります。

しかし、令和5年には入来麓交流館の開設や入来麓の案内サイン、説明板など、ハード面の充実により観光客の利便性が図られるようになりましたので、私どももこの歴史的風致の保存と継承に努めていきたいと思っております。